

第14回農業女子プロジェクト 推進会議

2025.11.14

- ✓ 本日の会議は対面とオンラインの併用で開催いたします。
- ✓ 本日の会議はマスコミが入るとともに、カメラ撮影があります。また、会議の様子を録画させていただきますので、予めご了承ください。
- ✓ 携帯電話をお持ちの方は、マナーモードに設定いただくようお願いします。

【オンライン参加の皆様】

- ✓ 回線状況等により、接続が切れることがあります。接続が切れた場合には、再起動の後、同一アドレスからご入場ください。
- ✓ 会議中は、カメラをオンにいただき、発表、発言以外では、マイクをミュートにしてご参加ください。
- ✓ また、意見、質問につきましては、議事の進行上、会場、オンラインを優先して対応いたします。チャットでの質問等には、お答えできない場合がありますので、予めご了承ください。

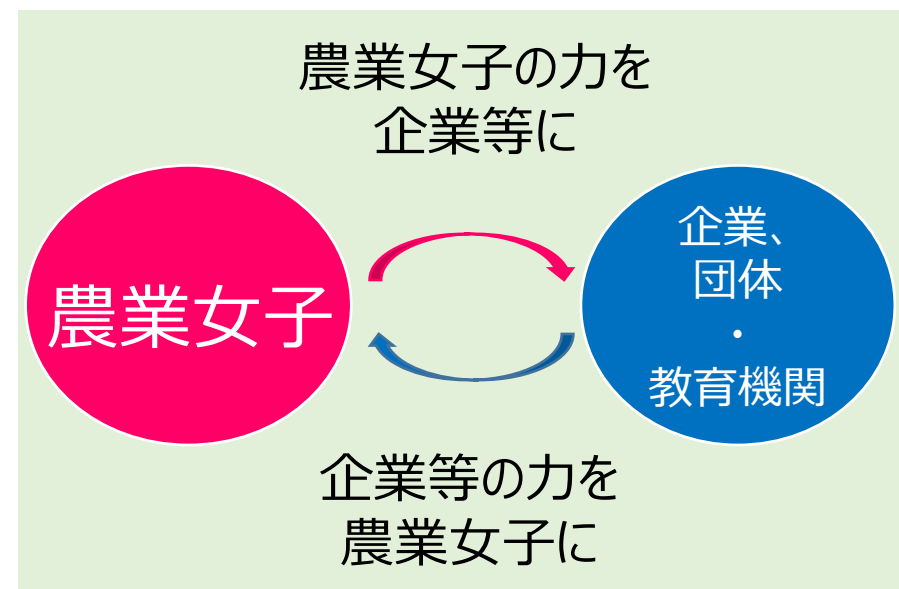
- ◆ 女性農業者の知恵を様々な企業等の技術、ノウハウ、アイデアなどと結びつけ、新たな商品やサービス等を開発するとともに、活動に関する情報を社会に広く発信。
- ◆ プロジェクトを通して、**社会全体での女性農業者の存在感**を高め、**経営力の向上**を図り、**職業としての農業を選択する若手女性の増加**をめざす。

個別プロジェクトの推進

企業等と女性農業者が協同で、新たな商品やサービス等を開発。農業女子の持つ3つのチカラ「生産力」「知恵力」「市場力」が発揮。

プロジェクトの広報活動

個別プロジェクトの進捗状況、イベントの開催等のプロジェクトの活動を発信 等



広く社会に発信

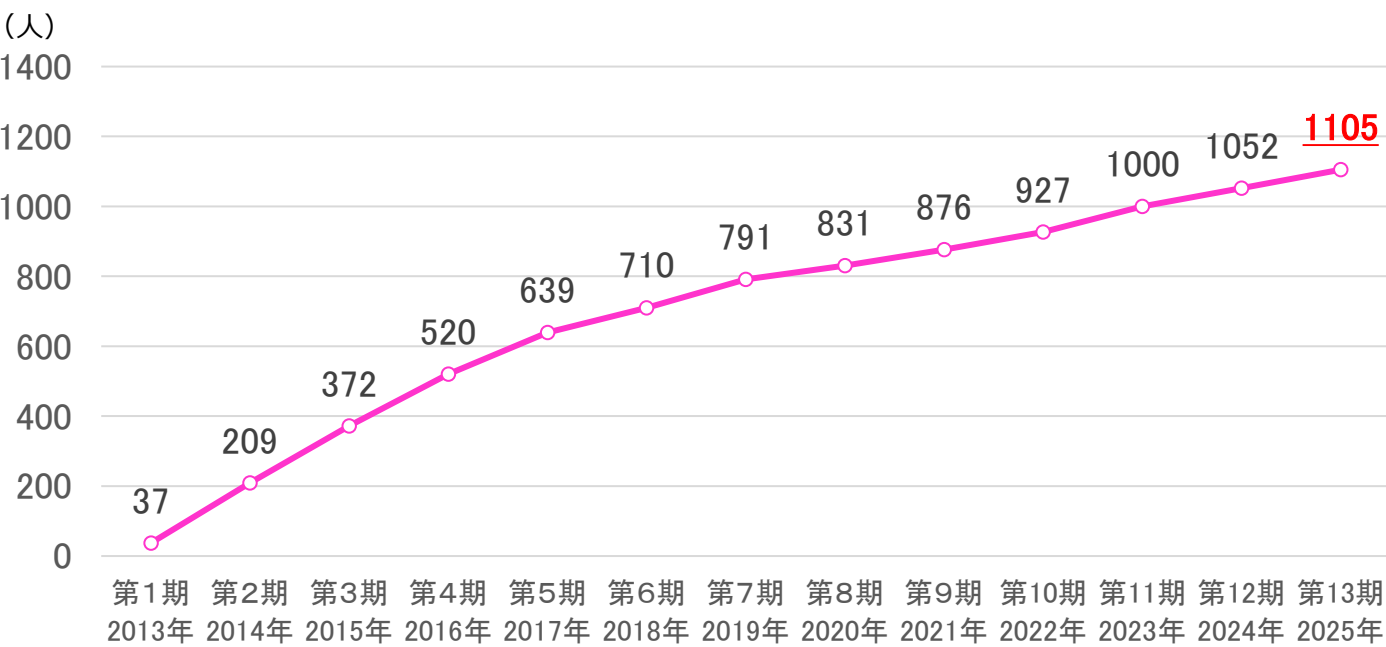
女性農業者の存在感を高める、企業等との連携によるビジネス発展、女性の職業選択肢に農業を！

農業女子プロジェクトメンバーの参画状況

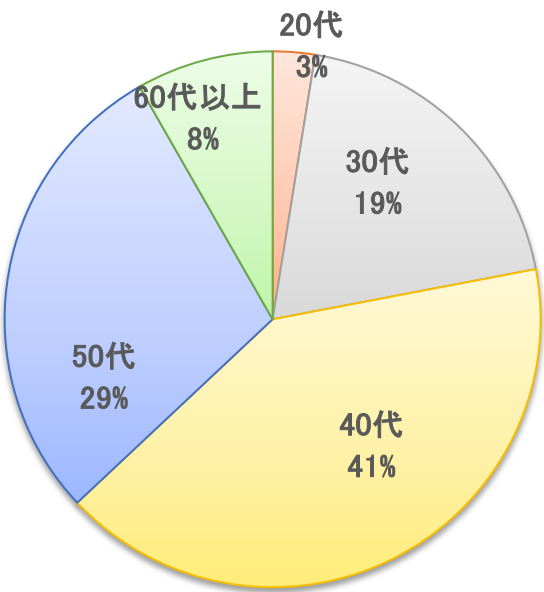


メンバー数：1,105名（2025年10月31日時点）

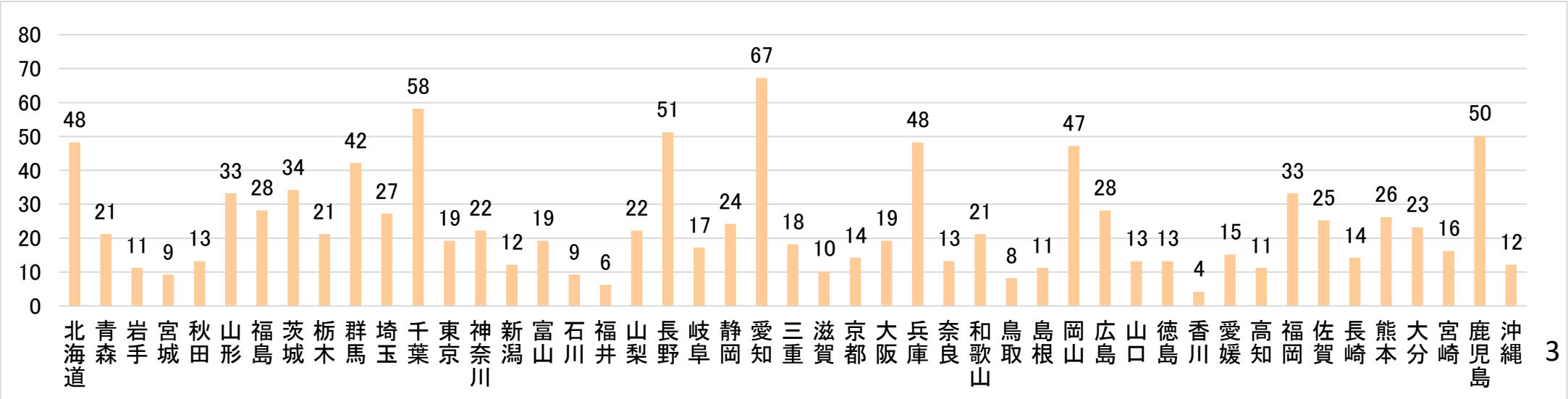
[メンバー数推移]



[メンバー年齢構成]



[都道府県別メンバー数]



農業女子プロジェクトの歩み



- ◆ 2013年11月より「農業女子プロジェクト」始動
- ◆ これまで企業や教育機関との取組の他、農業女子の自主的な活動など各種取組を実施

	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期
	2013.11～	2014.11～	2015.11～	2016.11～	2017.11～	2018.11～
主な取組	農業女子PJ始動 企業との取組を中心 に活動を実施 	農業女子PJ初のス ンアウトグループ結成 (おかやま) 	農林水産省イベン トへのブース出展等、 広報活動を積極化 	次世代の女性農業者 を育てる「チームはぐく み」スタート 	メンバーの自主的勉 強会「農業女子ラボ」 の始動 	農業女子が 取り組む SDGsの 発信  地域グループ活動の 活性化 
	第7期	第8期	第9期	第10期	第11期	第12期
	2019.11～	2020.11～	2021.11～	2022.11～	2023.11～	2024.11～
主な取組	★コロナ感染症の拡大 グループ間ネットワー クづくりの促進 	オンラインによる会議 やセミナー開催の促 進 個人のネットワークづ くり 	「農」の魅力発信への 取組 農業女子アワード 2022開催へ 	農業女子PJ10周年 を記念し、「農」を身近 に感じてもらうイベント 「わたしたちの未来への 種まき」を開催 	「NEXTラボ」の本格 実施 	パートナース会議、プレ メンバーの集いの開催 

1. 第12期 活動報告

(1) 個別プロジェクトにおける活動報告

(2) 活動方針に基づく活動報告

①. 人材育成機能の強化

②. パートナースとの連携プロジェクトの活性化

③. 「農」の魅力の発信

- ◆ パートナー企業によるモニター企画を通じた商品開発が動き出す
- ◆ パートナー企業と農林水産省がコラボセミナーを開催

(株)モンベル

■ 暑い夏を乗り切るための熱中症セミナー

モンベルと農林水産省農産局技術普及課が連携し、熱中症対策セミナーを実施。着るものから考える暑さ対策として、モンベルが推奨する熱中症対策アイテムの活用について紹介

【2025/7/11開催】

農作業中の熱中症対策 ▶ 単独作業は避ける 熱中症対策アイテムの活用



シャープ(株)

収穫物の「鮮度保持」に注目し、農業女子メンバーに対する光触媒技術を使用した試作機器のモニターを実施

【2025/10～ モニター開始】

収穫後の保管における実態を把握し、農業女子メンバーによるモニター結果を参考に、シャープ（株）の保有技術を農業分野に活用・用途展開を目指す



<この技術、農業分野で活用できるかも？>

～シャープ（株）の期待される技術～

- 定温輸送向け「適温蓄冷材（TEKION）」
低温障害なく青果物の保冷が可能
- 鮮度保持技術「調湿材料技術（TEKIjuN）」
湿度変化を調整することで、結露を抑制
- 体の中から暑熱対策「アイススラリー冷蔵庫」
酷暑に備える新しい暑熱対策として、冷蔵庫に市販のペットボトル飲料を入れるだけでアイススラリー*が生成できる

*微細な氷と液体が混合した流動性のある氷



■ 女性向け農業ウェア開発プロジェクト

農業女子メンバーに向けモニター商品を販売アンケートにより使用後のレビューを収集。オンラインミーティングにより現場でのウェア着用のリアルな声を収集

農業ウェアを着用した農作業の様子を農業メンバーから収集し、具体的な利用イメージを共有。モニター商品を着用しての作業の様子は、農業女子メンバーのSNSなどで自身の取組と共に発信し、プロジェクトの取り組みを周知【2025/4～10】

主な個別プロジェクト実績 ～はぐくみ隊～

- ◆ 農業女子メンバーとはぐくみ校が連携した活発な取り組みが実施
- ◆ パートナーによる個別プロジェクトをきっかけに、学生によるスピノフ活動が発足

宮城大学

■「ぼむすてなぶる」

横浜丸中ホールディングス主催のオンラインミーティングでの議論から、天野奈津美さん（長野県）と宮城大学食産業学群の有志メンバーにより、訳アリりんごや摘果りんごを活用したフードロス削減を考える学生グループ「ぼむすてなぶる」が発足



訳アリ・摘果りんごの問題に対する思いを共有、ディスカッション実施【2025/8/27 実施】

天野さんからのりんごのサンプルを使用し、試食や簡単な加工を実施【2025/10 実施】



■ 宮城大学チアーズ農園運営学生パワーアッププロジェクト

学生主体による産学連携の食農教育活動「宮城大学チアーズ農園運営学生チーム」と連携した取組。子供たちへ教えるための農作業を学生が学び、農業への理解を深めた

井関農機(株)と連携した耕運機やトラクターの安全な操作講習会の実施【2024/11/30 実施】



農林水産省「第1回みどり戦略学生チャレンジ」で東北ブロック最優秀賞を受賞

農業女子メンバーとの意見交換を実施【2025/9/24 実施】

南九州大学

宮崎県の農業女子グループ「HINATAあぐりんぬ」と連携し、宮崎県の農業女子を盛り上げる活動「ふあむぽっと」を通年で実施

■ HINATAあぐりんぬと学生が協働し販売会へ参加 【2024/11 参加】



■ HINATAあぐりんぬが作った野菜でおもてなし鍋パーティ開催 【2025/1 開催】

■ HINATAあぐりんぬの圃場における、現場の記録及び農作業の補助 【2025/5,6,7,9,10 実施】



■ HINATAあぐりんぬが講師となり学生へ講義を実施【2025/7 実施】

■ 学生が作った野菜を地域食堂に寄贈、地域食堂の手伝いを通して食の大切さを地域の人に伝えた【2025/5,6,7,9 実施】



■ 花苗を作り、地域のコミュニティガーデンに寄贈【2025/7・8 寄贈】

1. 第12期 活動報告

(1) 個別プロジェクトにおける活動報告

(2) 活動方針に基づく活動報告

- ①. 人材育成機能の強化
- ②. パートナースとの連携プロジェクトの活性化
- ③. 「農」の魅力の発信

1. 人材育成機能の強化

- ・「NEXTラボ」の深化
 - 新規層：引き続きNEXTラボの受講を推進する。
 - 中間層：アンバサダーとしての参加を通じ企画力・ファシリテーション力の強化を図る。
 - 発展層：経験を後輩に伝える講義機会を設定。分野ごとに学びたい人と教えたい人をマッチングし、実践への一歩につなげていく取組を開始する。
- ・農業女子プロジェクトメンバーの自主的取組の拡大

2. パートナースとの連携プロジェクトの活性化

- ・パートナーズ会議の実施
 - パートナーズ間の情報交換、コラボレーションの創出促進の場を設定する。
- ・地方農政局等と連携した地域活動の取組支援の強化

3. 「農」の魅力の発信

- ・「農業女子プレメンバー」を位置づけ、農業女子メンバーの交流を促進
- ・「はぐくみ部」の登録を促進し、活動を拡大
- ・農業女子の「輪」プロジェクトの開始
 - メンバーが自身の取組を農業女子プロジェクト公式Instagramで定期的に発信。投稿者が次の発信者を指名し、メンバーの「輪」を繋げる活動を実施する。



事務局・地方農政局が連携して取組を推進

1. 第12期 活動報告

(1) 個別プロジェクトにおける活動報告

(2) 活動方針に基づく活動報告

①. 人材育成機能の強化

②. パートナースとの連携プロジェクトの活性化

③. 「農」の魅力の発信

- ◆ 農業女子プロジェクトメンバーから企画・運営を行うアンバサダーを募集し、事務局と協働により開催
- ◆ 今期は、加工品製造、EC戦略、農業技術の3テーマを深掘りするセミナーを実施
テーマごとに、基本を知る導入セミナー（1回）、学びを深める探究セミナー（2回）として開催
（メンバー以外の外部講師は、パートナーズや農林水産省職員に依頼）

■ 学びたいテーマを設定

- ・ 農業女子メンバーを対象に、聴講したいセミナーのアンケートを実施。農業女子メンバーの関心の高い、上位3つをテーマに設定。
- ① 加工品の製造・販売に関すること
【ファームtoマーケットラボ～あなたの1歩を次の1歩へ～】
- ② ECサイト等の通信販売に関すること
【農園ブランドで夢を繋ぐEC戦略ラボ】
- ③ 農業資材・農業技術に関すること
【ものテックみらいラボ】

■ メンバーが主体となった学び

- ・ メンバーからアンバサダーを募って、各テーマに配属。アンバサーとともに、メンバー向けに誰から何を学ぶのかといった運営方法を検討。
- ・ セミナーは、アンバサダーが主体となって、進行やファシリテーターを担い、質疑応答、交流会を積極的に進行。メンバー目線の「知りたい」をサポート。

■ 課題、気づき

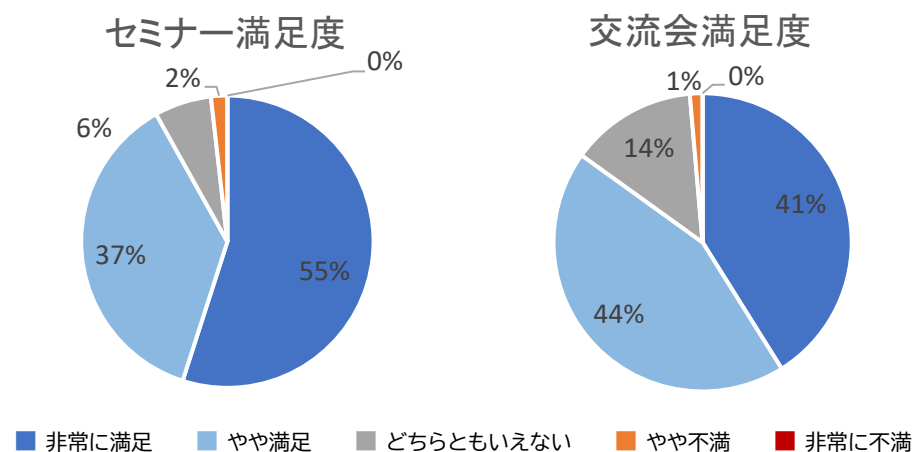
- ・ 参加者の経営の進展度が異なり、求める情報が多様であるため、講演内容の検討が難しかった。
- ・ 先輩メンバーの経験談、特に、苦労や失敗したポイントの話のニーズが高かった。

■ NEXTラボ参加状況 2025年10月時点

	参加者数	
	第1回	第2回
ファームtoマーケットラボ ～あなたの1歩を次の1歩へ～	24人	26人
農園ブランドで夢を繋ぐEC戦略ラボ	32人	今後開催
ものテックみらいラボ	10人	今後開催

延べ参加人数

■ NEXTラボ参加者アンケート



※延べ回答数：111件 / 交流会参加者回答総数：73件

- 12

農業女子プロジェクトメンバーの自主的取組の拡大

- ◆ 農業女子プロジェクト地域版グループによる積極的な活動の実施
- ◆ 万博出展を機に全国グループが発足

かごしま農業女子プロジェクトによる地域活動

■ 大阪・関西万博への参加



かごしま農業女子メンバーのパンフレットや映像、加工品のサンプルを配布するなど、鹿児島県内の女性農業者が未来にむかって取り組む活動を発信。【窪田加奈子さん、高橋さやかさん、小宮智子さん、柏孝代さん、雪丸あゆみさん 2025/8/13 出展】

■ 鹿児島ダイハツとのコラボ

鹿児島ダイハツのマルシェに使いやすい軽トラ「Nibako」を使用したマルシェに出店。
Li-ka1920Nibako移動販売には毎年出店。
【2025/7/26出店】



■ ごろふあんツーリズムによる農園ツアーの開催



都市の消費者を農園に案内し、「ごろっとファンになってもらう」ための取組として、「ごろふあんツーリズム」がモニターツアーを実施。第1弾は若松由美恵さんの茶畑と小宮智子さんのラッキョウを巡るツアーを実施。【2025/1/28・29 実施】
今後は、メンバーの農場でのツアー企画を予定。

■ 加世田常潤高校 常潤祭でのマルシェ出店

地元の高校との連携として、加世田常潤高校の文化祭“常潤祭”にて、マルシェを出店。今年で6年目の参加。

【2025/11/16 出店予定】

全国農業女子EXPO25による取組

万博の展示に向けて鹿児島以外の農業女子メンバーの有志で結成された県域を跨ぐグループ。万博の出展を機に、全国各所での取り組みをスタート。【メンバー：高村瑞穂さん（青森県）、津田乃梨子さん（千葉県）、かわじみきさん（山梨県）、岡田めぐみさん（愛知県）、岡本尚子さん（愛知県）、中岡満代さん（香川県）】

■ 大阪・関西万博への参加

日本各地で活躍するメンバーの皆さんの紹介が記載されたオリジナルのパンフレットや映像、各々のチラシ、商品サンプルを展示。映像やチラシ、ポスター等を一から創り上げ、新規就農希望者の応援を目標に、メンバーそれぞれの農業や活動を紹介。【2025/8/13 出展】



■ 羽田空港和蔵場でのワークショップ開催

国内外の人が行き交う羽田空港にある「和蔵場」において、農の楽しさを体験するワークショップを開催。「つくる・味わう・楽しむ」をテーマに、真菰のしめ縄づくり、オリーブオイルテイasting、コメ袋のエコバック作りを実施。



【2025/10/31～11/2 開催】

■ NIPPON FOOD SHIFT FES.東京 2025

丸の内にて「食」と「農」の魅力に触れ、学ぶ機会として開催。グループはマルシェを出店。【2025/11/8～9】

1. 第12期 活動報告

(1) 個別プロジェクトにおける活動報告

(2) 活動方針に基づく活動報告

①. 人材育成機能の強化

②. パートナースズとの連携プロジェクトの活性化

③. 「農」の魅力の発信

- ◆ パートナーズ（企業・教育機関等）が情報交換を行う「パートナーズ会議」を初めて開催
- ◆ 会議後、パートナーズ間の新たな連携を模索する交流が開始
- ◆ 今後、パートナーズの活動状況を取りまとめ、継続的に農業女子メンバーと共有することを検討

■ パートナーズ会議

- ・ 第12期から、農業女子プロジェクトへ参画する企業・教育機関等を「パートナーズ」として編成。
- ・ 2025年8月22日、パートナーズ間の情報交換の場として、初めて「パートナーズ会議」を開催（リアル・オンラインのハイブリッド開催）。パートナーズそれぞれの取組を紹介し、意見交換。
- ・ 会議後、事務局を介し、パートナーズによる新たな連携を模索する交流が開始された。企業等のコラボレーションによる新たな取組の実現が期待。
- ・ また、農業女子メンバーから、プロジェクトに参画する企業等の活動を知りたいとの声に応え、パートナーズの取組状況を一覧として整理し、継続的に農業女子プロジェクトメンバーと共有していくことを検討。

■ パートナーズ 参加状況 2025年10月末時点



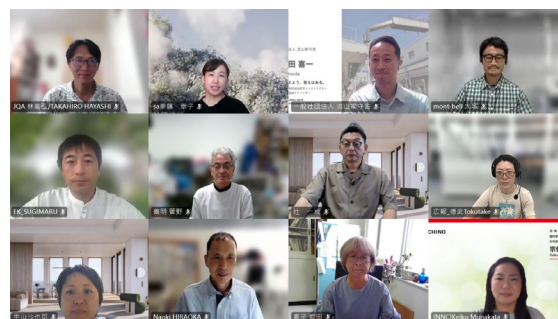
＜ パートナー ＞（企業・団体等）
42社（うち12期参画企業：17社）



＜ はぐくみ隊 ＞（教育機関・部活動・サークル等）
はぐくみ校 9校 はぐくみ部 1部

■ 参加者の感想

- ・ 農業女子プロジェクト初期から参加してきたが、当時は農業関連に特化していない企業の参加も多く、参加者同士のやり取りで大きなイベントに結び付くなど相乗効果を実感してきた。近年は、単独でプロジェクトを実施する企業が多いが、様々な企業等が参加する大変貴重なつながりであり、このつながりを活かし、プロジェクト拡大に貢献していきたい。
- ・ これまでの良事例を、関東近辺だけでなく様々な地域で実施するプロジェクトとして仕組んでいきたい。



地方農政局等と連携した地域活動の取組支援の強化

- ◆ 大農業女子会として初の地域開催となる「大農業女子会in淡路島2025」を開催
- ◆ 農政局、県拠点において、地域活動の取組支援を多数実施
- ◆ 自治体など地域の関係者とプロジェクトの状況を定期的に共有する仕組みがなく、今後検討していきたい

大農業女子会in淡路島2025の開催

近畿農政局の協力のもと、淡路島に拠点を置くパソナ農援隊と連携し地方初開催。

農業女子メンバーの他、企業の参加も募り、現地視察からパソナ農援隊が提供する農業関係人口を増やす取組事例を学び、農業女子プロジェクトメンバーと企業が連携した地域での取り組みについてグループワークを実施。【2025/3/14開催】

- 参加者数：43名
(うち農業女子メンバー26名、企業8社17名)

- アンケート総回答数：25名

- 参加者の声

＜農業女子プロジェクトメンバー＞

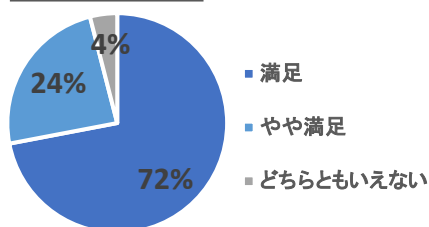
- ・農業女子プロジェクトメンバーだけでなく、企業、行政の方とも意見交換できたのが良かった
- ・淡路島の取組を知ることができ、商談する機会にもなった

＜企業＞

- ・農業女子プロジェクトメンバーとの意見交換が有意義だった
- ・地域によって抱えている課題が違うことが分かった



参加者満足度



九州農政局

- 九州農業女子スクールinかごしま開催！



“学校”をコンセプトに、農業女子の経営のスキルアップを目指す県域を越えたイベントを開催。九州地域から計58名が参加。

【2025/10/22開催】

- 九州農政局×女性農業者 食堂コラボ企画
九州農政局食堂で、女性農業者の野菜を使用した特別メニューを提供。【2025/6/24・25実施】
コラボ農業女子メンバー：林田裕美さん（熊本県・ミニトマト）



近畿農政局

- 大阪農業女子×しが農業女子
100人プロジェクト現地交流会

2025年8月25日、近畿地域のPJメンバーの共通の栽培品目メロンに着目し、スマート農業技術（ICT栽培）をテーマにした現地交流会を実施。（15名参加）農業女子メンバー、大学生、JA、行政（国・県・市）により意見交換。



一方、自治体などと農業女子プロジェクトの状況を定期的に共有する仕組みがない（メルマガは、製品開発中の情報を含むため、メンバーを中心に限られた者に送付）

1. 第12期 活動報告

(1) 個別プロジェクトにおける活動報告

(2) 活動方針に基づく活動報告

①. 人材育成機能の強化

②. パートナースとの連携プロジェクトの活性化

③. 「農」の魅力の発信

- ◆ 就農を目指すプレメンバーの情報交換のため「プレメンバーの集い」を実施
- ◆ 就農目前、就農直後の課題などをプレメンバー同士で共有、先輩メンバーからアドバイス
- ◆ プレメンバー共通の戸惑いがあることが判明、今後、就農前後の方々に広く共有していきたい

プレメンバーの集いを開催

- ・ 第12期から、農業女子プロジェクトにおいて、就農を目指す女性を「プレメンバー」として位置付け。
- ・ 就農前ということで、別途、就学時間などに配慮して開催時間を夜に設定したうえでフルオンラインで開催
【2025/9/26 開催】
- ・ 就農目前や就農直後の地域社会、住民との関わり方などをプレメンバー同士で共有し、受け入れ側でもある先輩メンバーと意見交換をオンラインで開催。
- ・ プレメンバーから、近隣農家との付き合い方がわからず、戸惑っているなどの発言があり、先輩メンバーから、訪問方法、タイミングなど、具体的な対応方法をアドバイス。
- ・ 多くのプレメンバーには、就農前後共通の戸惑いを感じており、共通の課題があることが判明。今後、就農前後の方々に広く共有していく必要。

◆ 農業女子プレメンバー

- ・ 12期は、全国から7名が所属（2025年10月末時点）
- ・ 就農後は、農業女子メンバーとして所属
- ・ 就農目前、就農直後の女性が所属するため、所属期間は短い

■ 参加者の感想

- ・ 和やかな雰囲気の中、抱える戸惑いなどを吐露でき、先輩メンバーからアドバイスを得られるなど、参加してよかった。
- ・ 就農前後で抱える課題は、多くの人が共通しており、その対応方法は、後続く人たちにも広く知らしめてほしい。





「はぐくみ部」の登録を促進し活動を拡大 / 農業女子の「輪」プロジェクト開始 農業女子PJ

- ◆ 部活動、サークル単位での参加が可能な「はぐくみ部」に、東大あぐりえこん。が参画
- ◆ インスタグラムで農業女子メンバーがリアルな農業の様子を紹介するなど、新たな情報発信を開始
- ◆ プロジェクトの信頼感醸成のためにも、新たなWebサイトを活用し、情報発信を強化していきたい

はぐくみ部

部活動、サークル単位等で参加できる「はぐくみ部」に、東大あぐりえこん。が参加 【2025/12 参加】
 学生の独自の活動に、「女性農業者」の目線を入れた取り組みを検討

東大あぐりえこん。

勉強会・イベント等を通じた農業女子メンバーと学生の交流と発信



はぐくみ部 第1号!
 わたしたち 「はぐくみ部」に参加しました!!
 部活・サークル等の単位でも参加できます!

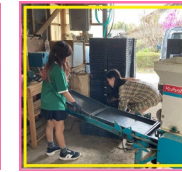
農業女子の「輪」プロジェクト

農業女子プロジェクト公式Instagramにて、農業女子メンバーが自身の取組を発信。【2025/4～ 投稿開始】
 投稿した農業女子メンバーが次の投稿者を指名するリレー形式で、4名が投稿。投稿へのいいね数も多い



START

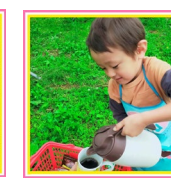
大津愛梨さん（熊本県）



加藤絵美さん（福島県）



高橋菜穂子さん（山形県）



次回！藤原美里さん（熊本県）
 投稿をお楽しみに！

■ 農業女子プロジェクトのWebサイトでの情報発信

Webサイトでの情報の蓄積が充分ではないとの声

→ 新たに参加するメンバーのためにも、新Webサイトを活用して
 情報の蓄積と発信を強化し、信頼感を醸成



**新Webページ
 公開開始!**

2. 第13期 活動方針

1. 人材育成機能の強化

- ・「NEXTラボ」の深化

新規層：引き続きNEXTラボの受講を推進する。

中間層：アンバサダーとしての参加を通じ企画力・ファシリテーション力の強化を図る。

発展層：経験を後輩に伝える講義機会を設定。分野ごとに学びたい人と教えたい人をマッチングし、実践への一歩につなげていく取組を開始する。

- ・農業女子プロジェクトメンバーの自主的取組の拡大

2. パートナースとの連携プロジェクトの活性化

- ・パートナーズ会議の実施

パートナーズ間の情報交換、コラボレーションの創出促進の場を設定する。

- ・地方農政局等と連携した地域活動の取組支援の強化

3. 「農」の魅力の発信

- ・「農業女子プレメンバー」を位置づけ、農業女子メンバーとの交流を促進

- ・「はぐくみ部」の登録を促進し、活動を拡大

- ・農業女子の「輪」プロジェクトの開始

農業女子メンバーが自身の取組を農業女子プロジェクト公式Instagramで定期的に発信。投稿者が次の発信者を指名し、メンバーの「輪」を繋げる活動を実施する。



事務局・地方農政局が連携して取組を推進

【 第12期の活動の振り返り 】

【 第13期の方向性 】

1. 人材育成機能の強化

- ・NEXTラボは第11期から2期実施
第12期はアンバサダーとなったメンバーの関心に応じて、事務局がパートナー企業を中心に講師を依頼
- ・万博などで全国の仲間とグループ活動を実施

- ・メンバーの関心は多岐に渡っており、農業女子プロジェクトのネットワークを活かして、より多様な展開を模索
(例) 日本農業法人協会と連携した外部セミナーの提供
農研機構と連携したセミナーの実施

2. パートナースとの連携プロジェクトの活性化

- ・パートナーズ会議を実施
パートナーズの連携を進めるうえでも継続的な情報共有の必要性が指摘された
- ・自治体等と農業女子プロジェクトの状況を定期的に共有する仕組みがない

- ・農業女子プロジェクトWebサイトを改修し、関係者の取組の発信を強化
- ・自治体等も含めた定期的な情報共有の仕組みを構築

3. 「農」の魅力の発信

- ・プレメンバーの集いを実施
プレメンバーが求める情報が、新規層も含め幅広く必要とされていることが判明
- ・農業女子プロジェクトのWebサイトでの情報発信量が少ないとの声

- ・プレメンバー向けのアプローチ・情報発信を強化し、参考となる情報ツールを作成
- ・農業女子プロジェクトWebサイトを改修し、情報発信（セミナー情報、はぐくみ隊活動など）を強化

1. 農業女子プロジェクトのネットワークを活かした学びの提供

- 「NEXTラボ」による学びの提供
 - ・ 2期実施した「NEXTラボ」は、メンバー自らアンバサダーとしてセミナーを作り上げ、企画力・ファシリテーション力の強化を図る構成はそのまま、農業女子プロジェクトのネットワークを活かした多様なテーマで実施
- より実践的な内容について、日本農業法人協会などの他組織と連携したセミナーを実施

2. パートナーズによるプロジェクトの多様な展開

- 新たに構築した農業女子プロジェクトWebサイトをハブとして、複数企業が参加するプロジェクトの生成を目指す
- プロジェクトを支援する各地域の体制を構築
 - ・ 自治体等との情報共有の仕組みを構築し、各地域での活動を支援

3. 「農」の魅力の発信

- プレメンバーや新規層に寄り添った情報発信
 - ・ 農業女子プレメンバーの集いを実施
 - ・ 関係者の声を基に、就農準備期・就農初期に役立つTipsを作成
- 新たに構築した農業女子プロジェクトWebサイトやSNSを活用して、リアルな農の魅力を発信



事務局・地方農政局が連携して取組を推進

3. 新規参画企業ご紹介

新規参画企業のご紹介

- ◆ 第12期から今日まで17社がパートナー企業として新規参画
- ◆ 皆さん、既に活動を始められていらっしゃいます。引き続きどうぞよろしくお願いいたします！

折兼ホールディングス
使用済の容器をリサイクル
「バガスフードサイクリングプロジェクト」

グローバルネットワーク
マルシェを通じて農業女子をサポート

施設園芸.com
ハウス栽培はお任せ！
農業女子にお役立ち情報を発信！

政策研究大学院大学
「性差医学に基づくWaiSE社会実装」片井研究室
性差医学の視点から農業女子を支援する
WaiSE(ワイズ)プロジェクト

ソル・メディア
サカママ食育マルシェ



大興貿易
農業女子の「美と健康」を育む第二弾

堤製作所
農業女子の姿勢を美しく！
姫鋤×理学療法士からの提案

つなぐグループ
地域と農業女子をつなぐ



ドリームワークス
ファッショナブルな農作業衣のご提案

NPO法人 農産物加工協会
持続可能な農業を目指す！
地域活性化に繋がる食品加工化への協力

have
農業女子PJ×食堂カフェpotto つながる、ごはん

阪神素地
農業女子目線で男性用、女性用の
長靴・ヤッケなどをプロデュース

パソナ農援隊
農業女子×Awaji Nature Lab&Resort
プロジェクト

流山家守舎、HouCo,inc.
農業女子と考える、地域の価値創造プロジェクト



東光商事、ユニークピース
AGRI・血行促進・LAB(アグリ・血行促進・ラボ)
～TERAX × 農業女子でつくる、明日の元気プロジェクト～